会議結果報告書

１　会議名	ごみ処理に関する課題についての意見交換会（ショクサンビラ自治会）
２　日時	平成 30 年 10 月 21 日（日）15：00～16：00
３　場所	ショクサンビラ自治会館
４　出席者	（資源循環課）森岡担当主査、小田副主査 （環境事業センター）広田主幹、安齋担当主査 （ショクサンビラ自治会）参加人数：６人
５　内容	本市のごみ処理に関する課題について意見交換会を実施した。会議の主な質問と意見は次のとおりであった。 ●社会全体がレジ袋有料化に変わろうとしている。コンビニ等でレジ袋を購入しても指定袋でなければごみ袋として使用することはできないが、そのレジ袋を指定袋とすれば、購入した袋をそのままごみ袋として使用することができ、ごみの減量に効果的であるため、社会の変化と併せた検討をした方が良い。 ●ドイツはごみ処理に先進的である。ごみの減量や有料化導入については、国内だけではなく、海外の施策も参考にした方が良い。 ●有料化を導入している県内市町村で、市民 1 人あたりの年間負担額の差がどのような理由によるものか調べてほしい。 ●ごみ処理業者を入札により決定する場合には、入札情報を公開し、市民に疑わしいことがないことをしっかりと示す必要がある。 ●福岡市では、びん・かん・ペットボトルについて指定袋があったが、大きいサイズのものしかなかった。単身世帯で少量の場合、袋代がもったいないので、袋がいっぱいになるまで溜める人が多く、不衛生であり、不便さを感じた。茅ヶ崎市が有料化を導入する場合には、袋のサイズを小中大といった複数種類を検討してほしい。 ●剪定枝の費用負担を軽減しないと、伐採をせずに放置する人が増加する。景観上、支障となるため、適切に出した場合のみ無料にすることを検討してほしい。 →先行市では、剪定枝やボランティア清掃のごみは有料化の対象外としている。本市においても、先行市を参考に検討していきたい。 ●出店代が無料のフリーマーケットを定期的に開催し、リサイクルを積極的に推進してほしい。 ●有料化導入の可否が決定した際は、このような意見公開をまた開催してほしい。

●有料化になった場合には、生ごみ処理容器が活躍すると思うが、普及を進めるために、個人負担金の軽減を検討してほしい。
→貴重な意見として頂戴する。生ごみ処理容器は、庭や畑がない家では、設置しづらいことや生ごみを発酵分解させる時のにおい等の問題があるが、それが解決できればとても有効であると考えるので、今後も普及啓発に努めていきたい。

●生ごみ処理容器を使用している人は、どのような感想を言われているか。
→堆肥化されて便利であるが、多少においがあるという意見を頂戴している。なお、設置したいが、庭や畑がないなど集合住宅に居住している方には、電動式生ごみ処理機をご案内している。

●戸別収集のデメリットとして示したコミュニティの希薄化についてだが、毎日ごみが出ていたが、急に出なくなったことを不審に思うなど、老人の孤独死等にも気づいてあげることができるため、希薄化ではなく、コミュニティは濃密になると考える。
→貴重な意見として頂戴する。なお、要介護などの一定の条件の方達に対しては、現在も「安心まごころ収集」という戸別収集を実施している。

●有料化の導入はやむを得ないと思うが、実施を前提とした資料を作成してほしい。また、条例を改正するなら市議会の議決も得る必要があると思うが、市民としてその動向は見守っていきたい。

●有料化を導入した場合、事業者はどのようになるか。
→家庭と比べ、いくらか増した金額での負担を検討している。

●現在は、事業者にどのようにごみを出させているか。
→茅ヶ崎市が許可している一般廃棄物処理業者に依頼をし、自己処理を行っているが、居住と一体となっている小規模な商店については、日量 10kg 未満であるならば、家庭ごみの収集に支障がない場合に限り、集積場所を管理している自治会の了解を得たうえで、集積場所にごみを出しているところもある。

●有料化と戸別収集はセットで実施するか。
→別々の施策であるため、有料化を単独で導入することもあれば、セットで導入することも考えられる。なお、戸別収集を単独で導入することは、経費のみ増加してしまうため考えにくい。戸別収集に要する経費が分かり次第、皆様には何らかの形でお示ししたいと考えている。

以上